

第四十一回 「全日本中学生水の作文コンクール」

広島県優秀作文集

令和元年

広島県土木建築局

目次

優秀賞

水と私達の生活	比治山女子中学校	三年	谷川	果乃子
「一滴から九億人分の水へ」	三次市立甲奴中学校	三年	星加	壮二郎
「考えだけで終わらない」	江田島市立江田島中学校	一年	四辻	麗光

入選

祈りの泉	比治山女子中学校	三年	鶴田	愛
水の惑星の水のピンチ	比治山女子中学校	一年	長島	里奈
水と生き物	三次市立三次中学校	三年	輿水	夕奈
水と共に生きる	三次市立三次中学校	三年	田村	葵
水川命	三次市立三次中学校	三年	野村	璃杏
命の大切さ	三次市立三次中学校	三年	中場	ゆら
水の輝き ～世界と日本～	東広島市立河内中学校	二年	川口	紗采

優 秀 賞

水と私達の生活

比治山女子中学校 三年 谷川 果乃子

水道の蛇口から出るきれいでおいしい水。

水道水は私達にとっても身近で、生きるために必要不可欠なものと去年の夏、私はその事を痛いほど感じました。

平成三十年七月豪雨は、私にとって忘れることの出来ない災害でした。私の住む広島県の海田町でも被害を受け、一晩で家の周りの景色が変わってしまいました。雨が滝の様に降り続け、町内放送も聞こえないほどでした。

その夜は恐怖心を抱きながら避難所で過ごしました。朝、外に出ると、道路には土砂が積もり山から雨水があふれ出して川の様になっていました。家の前まで土砂が流れて来ていましたが、家が無事だった事にほっとしました。

翌日、町内放送で水道水が濁っているのが飲まない様にと放送が流れました。コップに水を注ぐと、いつもは透き通っている水が少し濁っているようでした。そのため、母とスーパーに水を買に行きましたがたくさんの人達が買いに来ていたので本数の制限があつて思ったほど買えませんでした。そこで、ペットボトルの水をとても大事に飲みました。七月のとても暑い中、土砂の撤去作業などで近所でも熱中症になる人もいました。

普段蛇口をひねれば当たり前前の様にきれいな水が出て、いつでも飲めると思っていました。しかし、蛇口から出ている水が飲めないという事はとても不安で、色々なお店に行つて水を買いました。しかし、テレビで全てのライフラインが止まっている地域があると知り、水が出ているだけでも私達は助かっているなと思いました。数日後、水道水が飲めるようになったと放送が流れました。これで飲み水を気にしなくてもよくなりました、とても安心しました。

私の家の近くには浄水場があります。川の水をくみあげ、砂などでこしてきれいにする池、薬で消毒し飲めるようにしてからきれいになった水を貯めて調整する池があるということとを小学生の時の見学で教わりました。その施設で働いている人達も同じ地域の人が多いので、家に入ってきたり、土砂が崩れていたり大変な思いをしていたと思います。それなのに、みんなが安心して飲める水になる様に数日で直してくださいました。

私は数日でしたが、飲むための水を確保しなければ死んでしまうという恐怖を体験しました。海外では水道水を飲んではいけない国があるといわれています。安全ではないので飲むとおなか痛くなるという事です。日本では当たり前のように蛇口から出た水を直接飲むことが出来ます。日本の水道施設の方々の努力と責任感で安心安全な水が飲めるのだと思います。

災害は人間の力ではどうにもならず、ライフラインが止められてしまいます。そして人間は、水がないと五日で死んでしまうそうです。人が生きていくのに大切な水。私たちに身近な水道水が壊れたら、いち早く修復してくださる方々にとても感謝しています。

水は限りある資源でもあるので、雨が降らない時は節水しなければいけません。みんなが協力して、水を大切に守ってほしいと思います。

一滴から九億人分の水へ

三次市立甲奴中学校 三年 星加 壮二郎

風呂場から聞こえてくる水の音。僕が、扉を開けるとシャワーから水滴がしたりおちていた。きっと長い間、出したままになっていたのだろう。シャワーの下は、床一面に、水が広がっていた。日本では、蛇口をひねれば安全でおいしい水があふれ出てくる。風呂に毎日入ることができて、湯船いっぱいにお湯をはって一日の疲れを癒すこともできる。

「これだけ使っても大丈夫」そう僕は思っていたのだ。床に広がる水を見ても、罪悪感は少なかった。水が不足するということは、どこか遠い国のごくわずかな人達の間で起きているのだと思っていたからだ。そんな僕が水の大切さに気付いた切っ掛けは、あるインターネットの記事だった。『世界中で九億人の人が安全な水を確保できていない』という見出しだ。僕の目はひきつけられた。世界人口のおよそ八分の一もの人達が安全な水を知らないという事実には衝撃を受けたのだ。しかも、安全な水を飲めない人が九億人もいるのに、僕は無駄にしたのだ。普段、何気なく使っていた水を初めて「大切なもの」と感じた。

それから少しした頃、テレビで水に関する特集をしていた。それは、海外で水が不足している地域に井戸を作るという企画だった。その地域では安全な水を手に入れるために、毎日何キロメートルも離れた川に水をくみに行っていたという。当然、小さな子ども達も水くみという重労働を行わないと水が飲めないそうだ。そんな場所に井戸を作るのはとても大変そうだった。なかなか水も出ず、その苦労は、はかり知れない。

しかし、努力が実って井戸から水が湧いた時、現地の人々は本当に喜んでいて。テレビの画面越しに伝わってきた喜び。水が出るという日本ではあたりまえのことなのに、その地域の人々は涙が出るほど嬉しいことなのだ。

そこで「はっ」とした。この前の記事を思い出したからだ。今テレビ

に映っている現地の人々は、井戸ができる前まで安全な水が確保できない「九億人」に含まれているのだと。

また、この地球の人々が水を飲めるようになったとはいえ、世界ではいまだに「九億人」もの人たちが安全な水を求め続けている。ならば私たちに直接ではないが、水に関わる取り組みをすれば良いのではないのか。そうしてたどりついた考えは節水だ。「節水」は今までも心がけた事はある。また水道管が破裂した時は、断水を経験した。しかし、それを当たり前のように続けるのは難しかった。手を洗うときは一度水を止める。必要な分だけ使うように気をつける。どれも、ほんの少しだけ違えば良いのだが、それがなかなかできなかった。しかし、今からはできる。世界中にいる、安全な水を使えない九億人の人達のことを考えれば、井戸ができて、安全な水を飲めるようになった人達の喜びの顔を思い出せば良いのだから。

そして、きれいな水を守る事もできる。例えば、下水道に流す油や汚水をきれいにするために、その汚れの何倍もの水を使わなくてはいけないのだ。汚水を減らすことで、使う水を何倍も減らすことができる。

きっと、まだまだできることがたくさんあるだろう。少しずつ自分たちができる取り組みをすることが大切である。限りある水。貴重な地球の資源のことや、「九億人」の水を飲めない人達がいることを忘れずに、自分にできることから、始めて水を守っていく。世界中の誰もが、安全な水を使えることを願って。

「考えだけで終わらない」

江田島中学校 一年 四辻麗光

私達が生きていくためには、何が必要なのでしょう。空気や水・食べ物、火と答える人もいるのではないのでしょうか。私は、生きていくためには空気と同じように、水も必要だと思えます。昨年七月におこった西日本豪雨災害により、広範囲にわたり断水が起りました。当たり前前だと思っていた水が、当たり前前ではなくなりました。このような経験があり、水のありがたさについて、知ることができました。そして、水について、もっとくわしく知りたいと思い、考えてみました。

みなさんは、地球がなんと呼ばれているのか、ご存知ですか。インターネットで調べてみたところ「水不足が進む水の惑星」というサイトに、地球上の約七十パーセントが海洋と呼ばれる水のため「水の惑星」と呼ばれていると書かれていました。しかし、約七十パーセントのほとんどが海水と呼ばれる水のため、生活に使用することができません。そして、海水以外の残りの水は淡水と呼ばれ、生活に使用することができます。その淡水の多くは氷の形、もしくは地下の深いところにあります。そのため、人間が利用することのできる淡水は、約七十パーセントのうちわずかに〇.〇パーセントしかありません。この数字を見て、みなさんはどのように思いますか。よく分からなと思う人も多いでしょう。この数字は、とても小さい数を表します。つまり、私たちが生きていく中で使える水は、ほんのわずかしかないということです。この水をどのように使っていくのかで、私たちの今後のくらしが変わっていくのです。それなら、私たちは水をどのように使っていけばいいのでしょうか。考えたことは人によってちがうと思いますが、多くの方は「節水」と考えられると思います。地球にたくさんのお水があっても、私たちが使える水がほんのわずかしかないということが分かったと思います。その大切な水を今後も使えるようにするためには、水を節水することが一番です。で

は、すぐにできる簡単な節水方法を考えてみましょう。

一つ目は「みがきるときは水を止めておく」です。小さい子は、みがきるときも水を出しっぱなしにしている子が多くいると思います。たとえば、歯みがきをするときは、コップに水を入れ、その水で歯ブラシをぬらしてみましよう。残りの水をつがいののに使うのもいいと思います。手を洗うときの水の出しっぱなしや、顔を洗うときの水の出しっぱなしといった「出しっぱなし」をなくしていくことで水を大切に使うという思いが、子どもたちにも出てくるかもしれません。そして、出しっぱなしだった水の節水にもつながります。

二つ目は「お風呂の入り方」です。お風呂に入るとき、湯船にお湯をためずにシャワーだけですませている人はいませんか。シャワーよりも湯船にお湯をためて入る方が、水も節約でき、体もよく温まります。残り湯を花だんの水やりに使ったり、洗濯するのに使ったりすることもできます。

この二つの方法の他にも、節水の方法はたくさんあるでしょう。しかし、いくらたくさんあっても、それを実行する人がいないと意味がありません。私は、水の使い方考えるのと同時に、これからもずっと、安心して水を使うために、身近でできる節水の方法を、考えていきたいです。

祈りの泉

比治山女子中学校 三年 鶴田 愛

私は、中学生になってから、毎日のように広島平和記念公園の前を通って学校に通うようになりました。毎日広島平和記念公園の前を通る度、私はずっと不思議に感じている事がありました。それは、平和公園の正面にある噴水の存在です。この噴水の近くには「祈りの泉」と書いてある石碑があります。私が不思議に思ったのは①なぜ、ここに噴水があるのか。②水道代は、かからないのかということでした。

まず①について調べてみました。すると、原爆が落ちたときに、多くの被爆者が「水を下さい。水を」と言って、苦しみながら死んでいったことに関係していることが分かりました。この噴水は、熱さの中で水を求めて原爆で亡くなった人たちの霊を慰めるためにつくられたものでした。私は、このことを知って、噴水とは、「平和の象徴」だと思いました。水は、飲むためや農業や工業のためだけではなく、平和のシンボルになると思いました。私は、このことを広島だけでなく日本中の人に、それだけでなく世界中の人に伝えたいと思いました。

②については、図書館に行ったり、インターネットで調べてみましたが、正確には分かりませんでした。しかし、噴水に使われている水はろ過しながら水を循環させているところが多いそこで水道代はあまりかかっていないようでした。広島は川の街とも呼ばれ、平和公園も川に囲まれているのでその川の水を引き込んで循環し、使っているのかもしれない。この噴水は、まさに、川がたくさんある広島の地形を活かしたものであると思います。

これらの二つのことを調べているうちに、私はとても悲しい事実を知りました。それは、平和公園の横を流れる「元安川」という川についてです。原爆が落ちた後、多くの被爆者が、水を求めて、この川にやって来ました。そして、大勢の人たちが、この川の中で死んだのです。ここ

で亡くなった人たちは、痛くて、熱くて、苦しかったのだと思います。そして、彼らが求めたのは、川の水でした。この川に流れる水を利用して、噴水を作ったということは、「この水をたくさん飲んで下さい」という慰霊のメッセージが込められていると、あらためて思いました。

現在、噴水が街の中にあると、明るい気持ちになります。水は、体に必要なものであると同時に、心に豊かさを与えてくれると思います。これから、水を大切にしていきながら、水が豊かにある平和な世の中を保っていけるように、勉強を頑張っていきたいと思います。

今日も、平和公園の噴水は、勢いよく、天に届いています。その水は、私の周りにあるどの水よりも美しく、清らかです。

水の惑星の水のピンチ

比治山女子中学校 一年 長島 里奈

私は広島県の広島市に住んでいます。現在広島市には、太田川放水路、天満川、本川、元安川、京橋川、猿猴川の六つの川があります。なので水が豊富な日本でも、特に広島は水に恵まれていると思います。

だけど私は地球の中で水不足の国や地域があると知って、今地球はどのくらい危機におちいつているのか調べてみました。そうすると、現在の世界の七億人が水不足の状態です。暮らしていて、不衛生な水しか得られていないため、毎日約四千二百人、年間百八十八万人の子供たちが亡くなっていると知りました。そして、水をめぐって国際紛争が起きていることも知りました。国際紛争が起きることでもっと沢山の命が失われていると思うと、今まで犠牲になられた方々のことを知らずに無意識に水を使いきり過ぎていたと思うと、私はとてもいけないことをしたなと思います。なので私はもっと水不足について調べ、何か自分で少しでも協力できることが無いか考えようと思いました。

まず調べたことは、なぜ水不足は起きたのか調べました。調べてみると、水不足は私たちの豊かな生活を支えるために水の使用量が急増した事と分かりました。さらに、二〇二五年には世界の三分の二は水不足になると予想されていて、水不足はもっと進むし、水が豊富な日本でも水不足はすぐそこまで迫ってきていることを実感しました。

もうこれ以上水不足で亡くなる方を少しでも増やしたくないし、水不足の進行を少しでも止めたいと思います、自分に出来ることは何か悩みました。

「私は一切水を使いません。」

こんな事は言えないし、生きていく上で水は必要なことを知っているのでも、私が勝手に犠牲者になり、結果犠牲者を増やしてしまうことになるようなことになる、私の想っている「水不足の犠牲者を増やしたくない」という想いを、より離して「なるべく水不足はしたくありませんでし

た。

なので、水の無駄使いなどを辞めること、水を再利用すること、油などをそのままながして水を汚くするような行為をしないこと、などが一番身近で実践しやすいことかなと思います。そして、今地球は水不足でピンチにおちいつていることを意識して行動することが最も大切なことではないかと、思いました。

水は誰か一人のものではなく、みんなのものなので、節水などの自分が実際に出来ることを、進んで行動して、それが広がってたくさんの方が意識して行動すると地球上の水不足という問題が少しでも解決出来ると思うから、今の地球にも、何十年後の地球にも役に立てることなので、まずは自分に出来ることを精一杯頑張りたいと思います。

水と生き物

三次市立三次中学校 三年 輿水 夕奈

わたしたちの体重の約六十パーセントは何か知っていますか。答えは水です。私達の身体は半分以上を水が占めていて、その内の六パーセントを一気に失ってしまうと、脱水症状を起こし生命の危機になってしまふなど私達人間は水に助けられて生きています。

しかし、いつもあたりまえのように私達を助けてくれていた水はいつの日か恐れられるようになっていきます。

それは今から約八年前、二〇一一年三月十一日のことでした。私はその当時小学一年生でした。広島県にはそこまでの揺れは来ませんでした。テレビには私の大好きなアニメも放送されない、いつも慌ただしいテレビの中に小さいながら私も大変なことが起こっているのだなという認識だけがありました。それから数年後改めて三月十一日の状況を見ました。あの時はわからなかった地震の怖さ、見えている景色を全て飲み込みながら人々に迫ってくる波。その時私は初めて水が怖いと思いました。ですがその時は人ごこのような気持ちだったのです。

そして去年、あの悲劇が私たちを襲いました。それは七月に起こった西日本豪雨です。大雨が降り続き家でのんびりしていた私と祖母は自分達の鳴りやまないスマートフォンアラームに驚き、テレビで他の市の様子などを見ました。そこにあつたのはくずれ落ちる山や氾濫する川、そして避難する人々の姿がありました。私達の家の近くにある川も氾濫するかもしれないということ私の友達も避難している子もいました。しかし私達は避難しませんでした。なぜなら私の住む地域には橋を渡ったり、しばらく歩かないと避難場所がないからです。避難してくださいと言われてもする場所が無いのではどうしようもないではないか。私は雨の音を聞きながらそう思いました。翌日朝になって川の氾濫はなんとか逃れましたが、驚いたことに、私たちが住むアパートの周りが一面湖のようになっていたのです。浸水被害は無かったものの、みんなが外に

出て「こりやすごいね」と言っていました。水が引き、その翌日に少し落ち着いた川沿い付近を見に行くことにしました。少し引いたからとはいえ、川は濁流で、私が歩いている道路はおとこまでここを川が流れていたと物語るように木の枝や砂がちらばっていました。写真や動画を撮りながら歩いていきました。まるで海の砂浜を歩いている気分でした。テレビでは連日報道される各地の被害状況。私の住む地域とは比にならない程の光景に「水って人の命を奪うこともできてしまうのか」そう思いました。

私はこのたくさんさんの経験の中で水にとっても助けられてきました。喉が渇けば水を飲み、顔や手を洗ったり、思い起こしてみれば数えきれない程水を使う場面があります。それは人間だけではなく生き物全てがそうだと思います。しかしその中で、水は突如として猛威をふるい私達に襲いかかってくるのです。水はとても重要で、なくてはならないものではないけれど、きちんと怖さも知っておかなくてはならないと思いました。人々を健康に安全に生きさせてくれる水、その反面、それが水の本心なのかは分からないけれど、人間を襲ってくる水。これからも水と関わりながら、同時に警えながらこの先の未来を進んで行かなければならないのでしょうか。みなさんはこれからどう水と生きていきますか。

水と共に生きる

三次市立三次中学校 三年 田村 葵

私は先日、三次川サミットに出席しました。そこで、他校の川についての取り組みや思いを知ることができました。

川サミットでは、夏に、西日本で起きた豪雨についての話題が上がっておりました。中でも私が印象に残っているのは、オオサンショウウオという私の住んでいる地域ではハンザキと呼ばれる生物についての話題でした。ハンザキは、水のきれいな川に住んでいるのですが、豪雨の影響で川の水が増水し、ハンザキが流されてしまい数が減ってしまったりという内容でした。しかし対策としてハンザキを育てて増やそうとしていることも発表されました。この取り組みを学校ぐるみで行っているということに、とてもおどろき、それがとても印象に残っています。この話を聞いたとき私は学年で行ったボランティアのことを思い出しました。豪雨でボロボロになった鵜飼乗船場をそつじするボランティアで、私の学校は、このボランティアの内容を川サミットで発表していました。私はボランティアに行つて目の前の悲惨な光景を見たとき、何かの冗談なのではないかと、乾いた笑いをこぼしていました。私はハンザキが流されてしまったことと、鵜飼い船場がボロボロにされたことはどちらも、たった一回の豪雨による、ほんの一部の出来事だったのだとハッとさせられました。後に聞いた話では、あの豪雨は、あと五センチでも水かさが増していれば、堤防から水があふれ出し、川の周辺の地域はさらにひどい結果になっていたというのです。つまり今回の出来事は、まだよかったです結果ということになります。川の水で浸かってしまった場所などもあり豪雨で流れてきたゴミでボロボロの場所もあるというのにこれよりひどい結果があったかもしれないと思つと今でもゾッとするときがあります。それと同時に今友達と話したり、いっしょに学校へ通ったり、家族と一緒に自分の家でご飯を食べたりできるのはきつと何より幸

せなことなんだろうなと思いました。私は、もしあの豪雨で大切な人をなくしていたとしたら、私は今ほど幸せではないだろうし、悲しくて立ち直れなかったかもしれない。川や海などの水は、私たちになくてはならない存在です。しかし今回のように災害の原因になったりもします。都合が良すぎるかもしれませんが、私は未来に、私たちと水が共存する世界を願い、願うだけでなく自分でも動いていきたいなと思います。

水川命

三次市立三次中学校 三年 野村 璃杏

私たちは普段当たり前前に水を飲んでいきます。しかしこの世界のどこかでは、私たちが当たり前のように飲んでいる水が当たり前ではなく、貴重なものになっている人たちがいます。

例えば、二〇一八年七月に西日本豪雨災害がありました。あの日は突然起きた事でした。私はあの日、自分の部屋で携帯を見ていました。すると突然緊急速報が部屋に鳴り響きました。最初は大丈夫だろうと思い、また携帯を見始めました。しかしそれは、何回も何回も鳴り、とうとう避難する事になりました。その時私たち家族はパニック状態でとりあえず携帯と、財布を持って避難しました。その時私たちは、水など持っていなかったのです。

しかし西日本豪雨災害は、一日でおさまりました。だから買った水だけで足り私たちの命は、助かっていました。しかし二〇一一年三月十一日に起きた東日本大震災のように、自分の家も失い家族も失うなど避難生活が一ヶ月など長い期間になってしまうと、当たり前前に飲んでいた水が当たり前ではなくなるのです。このように、たった一つの水がなくなるだけでたくさんさんの命が失われる事もあるのです。私は、この体験や聞いた話を通して、水の大切さや、水のありがたさ、私たちが生きていられる理由など、色々なありがたみを知りました。もし水がなくなってしまうという事を、考えてみてください。実際に起きないと、分からない事かもしれませんが。しかし体験を通し、想像してみました。すると、それは恐怖でいっぱいになりました。理由は、水がないだけで、一番大切な命がうばわれるのです。うばわれるのは、私たち人間だけではないのです。生きている生物、ほとんどが水がないと生きていきません。このように水はきょうふになることもあります。しかし水は、この世界に

ないといけないものなのです。

水は、私たちの命を救ってくれている水でも、時には、命を、うばうこともあるのです。このように、水が私たちの味方になる時、それは幸せなのです。水が敵になるときは、幸せは、ほど遠く感じるのです。水は、自分自身で人間の敵に回ろうとはしていません。水は私たち人間に、生きる希望を与え、生きる意味や生きる大切さを教えてくれるのです。水は、命を救ってくれる大切なものです。今後私は、水の大切さを知り、いつ飲めなくなるのかという恐怖も水の大切さも味わって、生きていきたいと思えました。

命の大切さ

三次市立三次中学校 三年 中場ゆら

私は、去年の七月にあった西日本豪雨災害で被害を受ける直前でテレビに速報が出て家族はビックリして避難しようかしないかで迷っていて、速報が何回も数分に分けて出ていたので、祖母の家に避難する事にしました。

避難する途中、車で橋を渡るとき川の水量がいっぱいになっていて、私はおびえています。祖母の家に行くのには栗屋を通っていかないといけなくて、栗屋はとも土地が低いのですぐ浸ります。急いで車で通ったけれど、水が道路に溢れていました。そして祖母の家に近い所も土地が低くて、小川からすごい量の水が道路にきていて、車がすでに沈んでいるのが見えました。すると、母のスマホに祖父から連絡が来ました。祖父に「山道を通ってこい」と言われ、車をバックさせて、山道を通っていきました。山道に行くとき車が渋滞しており中々に進みませんでした。そこで時間が過ぎていき雨も強くなってきて、私は思いました。「もしこの山が崩れたらヤバイな」と思い、心が痛くなり、呼吸がしづらかったです。するとやっと車が進み一安心しました。そしてやっと祖母の家につきました。私は祖母に抱きつき泣きました。祖母が「大丈夫よ」と声をかけてくれて私はうれしかったです。母の顔も安心していました。

次に、朝になりテレビをつけると、岡山県の様子が映っていて、家が川の水で沈んでいました。私は広島県より岡山県の方が被害が大きいと分かり、多くの人が亡くなっているのが痛みました。私は兄と田んぼ道を歩きに行きました。すごい量のゴミが道にあがってきていたり、柵も水の力で折れていました。兄と私は「水の力はすごいね」と言いました。祖母の家には四泊して、地域の様子を見ながら帰りました。帰る途中もまだ川の水は減っておらず汚い状態でした。私はこの西日本豪雨は百年に一度と言われており、人生の中で一番怖かったです。

最後に、今でも家に帰っていない人達などがいるので食料や水の必要さがわかりました。いつかボランティアに行けたらいいです。この西日本豪雨災害で命の大きさと水の大切さがわかりました。

水の輝き ～世界と日本～

東広島市立河内中学校 二年 川口 紗采

「ねえ、水道代がもったいないよ。」

「別に教育委員会が払うからいいし。」

「えー…。でも…」

これは一年生の時の話です。当時は、その事に少し納得していました。そこで、水に困っている国について少し考えてみました。しかし、その国は数十ヶ国位だと思い、(私が節水すればいいか)となり、これ以上何も言いませんでした。

二年生になって、水についての授業がありました。水がきれいな国は、ヘルシンキ、ホノルル、ストックホルム、アトランタ、コペンハーゲン、デトロイト、ウィーン、サンフランシスコ、シドニー、バンクーバー、日本各地だといわれました。日本各地という事に対して疑問に思った私は、「どうして日本各地なんですか」と聞いてみると、

「ああ、それはね、日本中でもきれいな水が飲めない所があるかもしれないからだよ。」と言われました。さらに、持っているワークを見てみると、『世界の大都市の8割近くは、水道水を飲むことができない』と書かれてありました。

私はこの事実を目の前が暗くなりました。

(え…。自分達と同じ暮らしをしている国がもっとあると思ったのに、全然ちがう…。しかも、大都市だけでも、2割しかきれいな水が飲めないって事でしょ…)。

今の世界では、戦争や公害などの被害で、きれいな水が飲めない国があるのは知っていました。しかし、こんなにきれいな水が飲めない国があるとは、予想外でした。

またワークを見ると、

『地球の水の98%は海水で2%が淡水だが、淡水の大半は氷河。我々が利用できる水は1%にも満たないのだ』と書いてありました。

(98%が海水で、2%が淡水か…。でも、その大半は氷河で、私達が使えるのは、1%も無いんだよね！)

私は、私達が使える水の量のあまりの少なさに目が丸くなりました。もしも地球の水が今、突然無くなったら、私達はどうなるのか気になって考えました。

まずは人間や動物、植物の水分が無くなる。植物はしばらくの間、育つ事ができるが、人間や動物は、体内の水分不足で動けなくなっていき、ついには死んでしまう。

授業でやったワークを見ると、

『飲まず食わず』という言葉があるが、食わずとも一ヶ月程度は生きられても、飲まずでは一日で体に異変が現れ、五く六日で死亡するといふ』と書いてあり、

(つまり、水が無くなってから、五く六日で地球から人がいなくなっちゃうって事、だ…よ…ね…)。

そう考えると、とてもゾゾッとしました。

(でも、水のおかげで私達は、生きられているって事だよなー) この事を考えていると、今までの私は、水に対して甘く見ていたと思いが知らされました。

この地球の水を使う上で、ほかにも節水出来ないか考え、行動や呼びかけをしていき、今の世界の水と、今の日本の水の輝き、きれいな水の違いと、今ある水のありがたさを皆さんにはもっと深く知ってもらいたいです。

水は、人・動物・植物の永遠の「スター」として輝くと私は思います。